



11月に開催される「ねんりんピック彩の国さいたま 2026」に合わせて、市内開催の種目である「俳句」を中心に詩や短歌などの「うた」に関する本を展示します。さあ、みなさんも読んで、詠みましょう♪

●『基礎からわかる はじめての俳句 上達のポイント』

上野貴子／著 メイツ出版 2016年

俳句の歴史と基本的なルールから、場面に合わせた作句のポイントや、吟行・句会・俳句相撲など上達につながるイベントが紹介されています。

●『春夏秋冬を楽しむ 俳句歳時記』 日下野 由季／監修 成美堂出版 2020年



俳句には、「季語」を入れる決まりがあります。季語の季節は、旧暦の季節。600の季語を細やかに紹介する、この「歳時記」を手に、むかしの時間軸で季節の移り変わりを楽しみながら、一句いかがですか。

●『薔薇の詩のアンソロジー』 清岡 卓行／編訳 日本文芸社 1990年

5月はバラの見ごろです。美しく咲き誇るバラを眺めながら、古今東西、世界中で詠まれた薔薇の詩を味わいませんか。



●『One Hundred Poems from Old Japan A New Translation of the Hyakunin Isshu』

Fujiwara noTeika／編著 Michael Freiling／訳著
チャールズ・イー・タトル出版 2025年

鎌倉時代の歌人、藤原定家が編纂した小倉百人一首。英語で読むのも新鮮です。
「Even when the gods lived here on earth one never heard of wonders such as this- the waters of the Tatsuya flowing scarlet, dyed bright with fallen maple. 17 Ariwara no Narihira」。これは、どんな句でしょう？（答えは55ページ）

読む

- 『荒川流域の文学 埼玉をめぐる人と作品』
埼玉文芸家集団 刊行委員会／編 さきたま出版会 2006年
- 『江戸川柳おもしろ偉人伝 一〇〇』 小栗清吾／著 平凡社 2013年
- 『奥の細道俳句でてくてく』 路上観察学会／著 太田出版 2002年
- 『おとなのためのやさしい漢詩教室』 三羽邦美／著 2017年
- 『恋する「小倉百人一首」』 阿刀田高／著 潮出版社 2011年
- 『人工知能が俳句を詠む AI一茶くんの挑戦』
川村秀憲・山下倫央・横山想一郎／著 オーム社 2021年
- 『はじめて出会う短歌100』 千葉聡／編 佐藤りえ／絵 短歌研究社 2020年
- 『日めくり四季のうた』 長谷川權／著 中央公論新社 2010年
- 『万葉集百歌』 古橋信孝・森朝男／著 青灯社 2008年



詠む

- 『季節の366日話題事典』 倉嶋厚／著 東京堂出版 2002年
- 『夏井いつきの俳句ことはじめ 俳句をはじめる前に聞きたい40のこと』
夏井いつき／著 ナツメ社 2019年
- 『60歳からの楽しい俳句入門』 鵜田智哉／著 有楽出版社 2008年

“うた”の雑誌

最新号は、所蔵する図書館内でご覧ください。バックナンバーは、予約・取り寄せができます。

- 『NHK短歌』 月刊 NHK出版
- 『現代短歌』 隔月刊 現代短歌社
- 『短歌研究』 隔月刊 短歌研究社
- 『NHK俳句』 月刊 NHK出版
- ◎ 『俳句』 月刊 KADOKAWA
- 『川柳研究』 月刊 川柳研究社
- 『現代詩手帖』 月刊 思潮社
- 『歌壇』 月刊 本阿弥書店
- ◎ 『短歌』 月刊 KADOKAWA
- 『現代俳句』 月刊 現代俳句協会

